

市民活動を FM ラジオで発信！！ 『つなげよう！市民のチカラ！』



南城西町会長の山形さん

○第6回：2015年10月25日（日）

○ゲスト：弘前市町会連合会理事

南城西町会長 山形 正臣さん

○放送内容

町会加入促進に向け、不動産関連団体・市町会連・市の三者で締結した「町会活動活性化に関する協定」や、市と町会連との協働による「地域コミュニティ強化プロジェクトチーム」等、地域住民と行政が一緒に地域コミュニティの強化を目指していく取り組みをはじめ、町会の抱える課題や町会の存在意義についてお話しいただきました。

□ 町会の今

城西団地内にある9町会を取りまとめる城西地区町会連合会の会長も務める山形さん。城西地区はおよそ1,600世帯あり、約4,000人の住民が暮らしています。地区町会連合会は9町会の中で支援的に調整を図りながら、事業展開を円滑に進めていく役割を担っています。

山形さんは、「城西団地は他所から転入してきた世帯が多く、まとめていくのがなかなか難しい面もあり、昔に比べると近所付き合いや地域のつながりも減ってきている状況」と町会を取り巻く現状を危惧しています。

□ 地域のつながりを強くする

「町会というのは、そこに住んでいる人にとっての生活の基盤です。」

その中で隣組やお向かいさん同士が、いかに仲良くしながら支えあい、助け合いながら豊かな地域をつくっていくかということが町会の果たす役割ではないかと思うんです。」

地域のつながりが希薄になってきている現状を開くため、弘前市では町会連合会と協働で「地域コミュニティ強化プロジェクトチーム」を立ち上げたほか、不動産関連団体・町会連・市が協力し合い、転入者等の町会加入につなげる「町会活動活性化に関する協定」を締結し、精力的に町会加入の促進に取り組んでいます。

山形さんは、「弘前市は自主防災組織の組織率が低い現状にあります。災害時に大切になる“自助・共助・公助”を考えると、何かあったとき、行政で目を配りきれない部分では、町会の人と人とのつながりが必要になってくると思うんですよ」とお話しされていました。

□ 『町会だより』で伝えたいこと

町会加入に向けての新しい取り組みも始まる中、話題は町会の今後の話に。若い世代はインターネットをよく使うので、回覧板も将来的にはSNSで回ってくるのでは？との問いに、「時代はどんどん変わってグローバル化が進み、今後、柔軟に対応していかなければならないと思っています。ですが、住民のみなさんに町会行事を紹介しながら、町会の活動を理解していただくということの大切さを日頃実感しているので、南城西町会では全ての人が手に取れる紙媒体の『町会だより』を発行し、みなさんに配布しています」と山形さん。

紙媒体の『町会だより』が住民一人ひとりの手元に届く安心感を大切にしている山形さんの思いが伝わってきました。

□ 理想をあきらめない

町会加入の促進から自主防災組織へとつなげ、地域コミュニティが継続していけるのが理想と語る山形さん。

「できるだけ理想に近づけていく努力をしていくこと、いろいろ報道もしていただきながら、町会や地域のつながりの大切さについて、住民の理解を深めていく呼び掛けを継続していきます。」

南城西町会では、これからも“草の根運動”を続け、町会の存在意義を伝えていきます。